



「廊下を居室に取り込んで憩い・団らんスペースを広くする」



玄関ホール・廊下を居間に取り込んだ LDK

改修前の小さく仕切られた間取りは、未使用の部屋や廊下に取り入れられる部分が多くなり、家全体を効率よく活かさない。K 邸の廊下比率は改修前 13.9%、改修後 9.4% と 4.5 ポイント下げた。面積にして、2.5 帖程広くなったことになるが、効果は面積よりも視覚的効果大きい。連続した空間の機能性は、長く使い続けられる可能性を秘めている。また、改修前は周りの環境に対する配慮がなされておらず、せっかくの眺望が活かされていない。改修後は、居間に朝の陽を取り入れ、クヌギの大木を眺めることができるよう大きな窓を設置、室内から光・景色・風を感じられるようにした。更に北側の玄関に大きな開口を設けることで、居間から玄関土間越しに遠くの風景も愉しめるようになった。室内を自由に行き来するネコたちと、自然を感じられる暮らしがはじまる。



居間からのクヌギの大木を眺める

造作材は、天竜杉の葉枯し天然乾燥材を使用した。



ネコたちのユーティリティ



改修前南面



改修前正面



改修後正面



南側居間を 2 階吹き抜けにしたネコのデイルーム



ネコ階段



ネコ用くぐり戸



スケッチアップによるプレゼンテーション

建築作品部門

耐震改修・リノベーション
未使用住宅の利活用・再生事例

川崎市麻生区 猫と共に暮らす K 邸

建築地は、小田急線新百合ヶ丘駅から至近距離の小高い丘の上に在る、借景も良好な住宅地。建物は築 33 年、しばらく未使用になっていた親の住まいを、息子夫婦が耐震改修・リノベーションを行い、新たな HOME を作りたいという依頼でした。ご夫婦は大のネコ好き、テーマは 5 匹のネコの為に快適な居場所を用意して、ネコと共に暮らす家。ネコは、常に快適で、安全、安心の場所を求め、本能的にその居場所を探して移動する。人ならぬネコの移・食・住を想像しながら、様々な仕掛けをしつらえつつ、人の住まいとしての安全性は、耐震等級 3 以上、温熱等級 3 を確保した。平面計画は出来る限り壁を取り除き、光と風と眺望を取り込んだ広々とした住まいが完成した。



応募代表者：白石 巖
アービア設計事務所

1986 年 (株)アービア設計事務所 代表取締役役に就任
実務経験年数 45 年 JIA 登録建築家
日本建築士事務所連合会 低炭素化・省エネルギーワーキンググループメンバー

建築家が取り組む既存改修は、単なる化粧直しではなく、リノベーションの提案が重要と考える。弊社は構造家と机を並べる環境にある為、時に耐震化に伴うリフォームの依頼からリノベーションに発展する機会が多い。耐震化による安全・安心に加えて新たな家族の住まいに受け継がれてゆく家づくりには、様々な環境問題解決の鍵が隠されていると考えます。